

2018年(平成30年) 折り鶴平和大使のヒロシマ日記



市民から寄せられた約1万5千羽の折り鶴

川西市では、非核平和都市宣言の趣旨にのっとり、市民平和推進事業として、毎年「折り鶴平和大使」派遣事業を実施しています。この事業は、今回で、15回目となりました。

今年度の折り鶴平和大使に公募で選ばれたのは、市立明峰中学校1年生の石津 杏さんと大阪教育大学附属池田小学校5年生の戸口 紗良さんです。

2人の大使は、8月6日に広島市で開催されました平和記念式典に市民の代表として参列するとともに、市民が平和への願いを込めて折ったりんどう色の折り鶴を平和公園の原爆の子の像に捧げてきました。



原爆の子の像の前で

● 川西市の市花であるりんどう色の折り鶴を広島に届けてきました。私たちの他にも多数の折り鶴を持った人たちがいました。世界が平和になることを願う人が多くいることを知り、とてもうれしく思いました。(石津)

● 原爆の子の像のモデルとなった佐々木貞子さんをはじめ、原爆で亡くなられた方々に川西市の平和への思いが届いてほしいと願いながら折り鶴を捧げました。(戸口)



折り鶴を捧ぐ

折り鶴を捧ぐ



原爆ドーム前にて

● 原爆ドームの建て物の下は、あれから73年もたった今も、がれきやれんがの破へんが辺りにちらばっていて、時が止まってしまっているようで、きょうふを感じました。改めて戦争は絶対になくさないとけないと思いました。(戸口)

● 原子爆弾が投下される前、あんなに大きくきれいだつた産業奨励館が後の原爆ドームだと考えると、改めて原子爆弾の威力に恐怖を感じました。(石津)

8月5日(日) 広島到着

● 市長さんから、りんどう色の折り鶴を受け取った時に、この鶴一つ一つにこめられている平和への祈りを広島に届けたいと強く感じました。そして、広島でしっかりと学び、語り伝えていきたいと思いました。(戸口)

● 壮行式では市長さんから折り鶴を受け取りました。その時に感じた折り鶴の重み、それは川西市民の方々の平和に対する強い思いがこもっているからだと思いました。(石津)

8月1日(水) 市役所にて壮行式



市長から折り鶴を託される2人

広島平和記念資料館など見学



本川小学校 平和資料館にて

●国立原爆死没者追悼平和祈念館を見学し、「被爆体験朗読会」にも参加しました。朗読していただいた詩の中で一番印象に残っているのが、「おとうちゃん」という詩です。この詩の「せんそつがなかったら、おとうちゃんはしななかったら」という所を聞いて、おとうさんを亡くした子どもの絶望感が伝わってきて、二度と戦争を起してはならないと強く感じました。(戸口)

●広島平和記念資料館では原子爆弾が投下された時のことから今までのことが詳しく記されていました。なかには、目をむむってしまうものや、言葉を失ってしまうものもありました。だからして目をそむけずに、あの日あの時何があったのかを知ること、戦争の悲惨さ、恐ろしさを学ぶことができました。(石津)

8月6日(月) 平和記念式典



子ども代表の平和への誓い

●式典にはものすごく多くの人が参列していました。私の前の席の人は外国の方でした。他にも多くの外国の方を見かけました。国をへだてても戦争や平和について考えている人がたくさんいるのだなと改めて実感しました。こども代表の平和へのちかいで「平和とは、夢や希望を持てる未来があること」と言っていて、とても共感できました。世界では争い事がなくなりません。世界中の人々が平和になってほしいと私は願います。(戸口)

●早朝にも関わらず、平和記念式典は人であふれかえっていました。なかには外国の人や、若い人などいろいろな人が来ていました。世界中の人々が平和問題についてよく考え、よく知り、ちゃんと向き合っていました。私は、平和宣言や平和への誓いを聞いて、知って考えるだけじゃなく、知ったうえで、考えたうえでどうしたいかを行動にうつしたいと思いました。(石津)



献花する大使



式典会場にて

◆折り鶴平和大使になって◆

●私は、平和大使として広島へ行き、平和の大切さを学ばせていただきました。広島では多くの高校生が核兵器廃絶のための署名活動をしていました。原爆が落とされると罪のない多くの人たちの命がいつしゅんにうばわれてしまいます。世界中から核兵器がなくなつてほしいと切に願います。核兵器をなくすことはむずかしいことかもしれませんが、平和記念式典で「私たちは無力ではないのです」と子ども代表は『平和へのちかひ』で言っていました。広島で学んだ原爆のおそろしさを伝え、後世に残すため、私にできることをやっていきたいと思います。(戸口)

●私は今回、折り鶴平和大使として広島に行き、平和記念式典に参加しました。最初は不安だったけど、戦争は二度と繰り返してはならないということを強く思いました。今まで私たちは聞く側でしたが、次は私たちが核兵器廃絶を後世に伝えていく側にならなければいけないと強く思いました。(石津)



式典会場前にて

非核平和都市宣言

世界中の人々が等しく平和な暮らしを営むことは、人類共通の願いです。

それにもかかわらず、地球上の全生命を滅ぼしてもなお余るほどの核兵器が蓄積され、世界の平和に深刻な脅威を与えています。

わが国は世界で最初の核被爆国として、核兵器と戦争の恐ろしさを全世界に訴え、その惨禍を絶対に繰り返させてはなりません。

私たちは祖先から受け継いできた猪名川の清流、豊かな緑、そして人類共通の財産である青く美しい地球を永遠に守り続けるためにも、核兵器をつくらず・持たず・持ち込ませずの「非核三原則」を遵守するとともに、恐るべき核兵器の廃絶を願い、人と人が憎しみあい傷つけあうことのない世界の創造を求めて、ここに市民の総意のもと、川西市を「非核平和都市」とすることを宣言します。

平成元年(1989年)7月14日 川西市



▲川西市の平和モニュメント「鐘」(下ウ)